



支援員養成講座4

発達障害と合理的配慮①

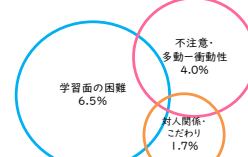
学習障害(LD)



1

子どもの実態

通常学級に在籍し、学習面・行動面に困難を示す子ども **8.8%**
10年前の調査から2.3ポイントも増加



文部科学省
通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査より(2022年)



2

子どもの実態

8.8%だとすると・・・

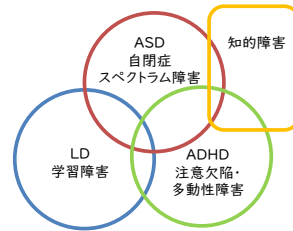
1学年に5～6人くらい

1クラスに3人くらい

困っている子どもがいるかもしれません



3



4

本日の内容

学習障害(LD)

注意欠陥多動性障害(ADHD)

自閉症スペクトラム障害(ASD)

知的障害



5

主な発達障害

学習障害(LD)

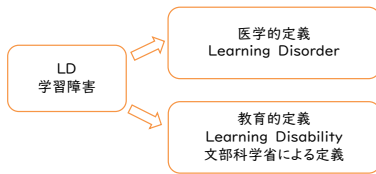
注意欠陥多動性障害(ADHD)

自閉症スペクトラム(ASD)



6

医学的定義と教育的定義



医学的定義

Specific Learning Disorder
限局性学習症/限局性学習障害

「学習や学業的技術の使用に困難があり、
その困難を対象とした介入が提供されているにもかかわらず・・・」

読みの流暢性

意味理解

綴り字の困難

書字表出の困難

数字の概念、数値、計算の習得の困難

数学的推論の困難

日本精神神経学会(監修) 医学書院 DSM-5精神疾患の診断統計マニュアル

7

8

教育的定義

全般的な知的発達に遅れはない。

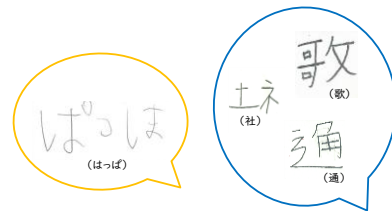
聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。

障害の原因として、中枢神経系に何らかの機能障害が推定される。

視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害が直接の原因ではない。

環境的な要因によるものではない。

学習障害のある子どもは・・・



9

10

学習障害のある子どもの認知の特徴

- **記憶**
複数の簡単な指示を覚えることが難しい。
- **聴覚的理解や視覚的理解**
言葉による指示で行動できないが視覚的な手がかりがあれば理解できるなど
- **言葉の発達や偏り**
言葉の発端が遅い、語彙が少ない、文法の誤りなど

学校場面では

- 授業内容は理解しているのに、漢字は何度練習しても書くことができない。
- 計算の方法はわかっているのに、ミスが多い。
- 文章を読む際に、何度もつまづく

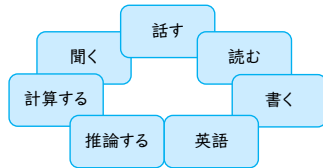
やる気がない？
できるはずなのに・・・

11

12

どこに困難があるのか

子どもたちが直面している苦手さに、どれだけ早く気づくことができるか？



13

「学びにくい」を「学びやすく」する

どこが苦手で、それはなぜか、その子が学びやすくするためにはどのような工夫が必要なのか？

- ・苦手なことを把握する
- ・それはなぜかを考える
- ・苦手さへの対応策を工夫する
- ・やる気になるような評価をする
- ・補助手段、代替手段を考える

黒川君江ら 小学館 LD、ADHD、高機能自閉症児への手だてとヒント



14

苦手さへの支援の工夫

- ・筆算の桁がずれてしまう
→ マス目のあるノートやプリント用紙を用意する
- ・聞き漏らしが多い
→ 個別に言葉をかける
- ・漢字をマス内に書くことができない
→ マスを大きくしたプリントを用意する
- ・読み誤り、読み飛ばしが多い
→ 単語や文のまとまりをわかりやすくしたり、補助シートを活用する



15

LDと合理的配慮

穴埋め式のワークシートを利用

音読専用教科書の活用

タブレット型端末や
アプリケーションソフトの活用

国立特別支援教育総合研究所、「合理的配慮」実践事例データベース



16